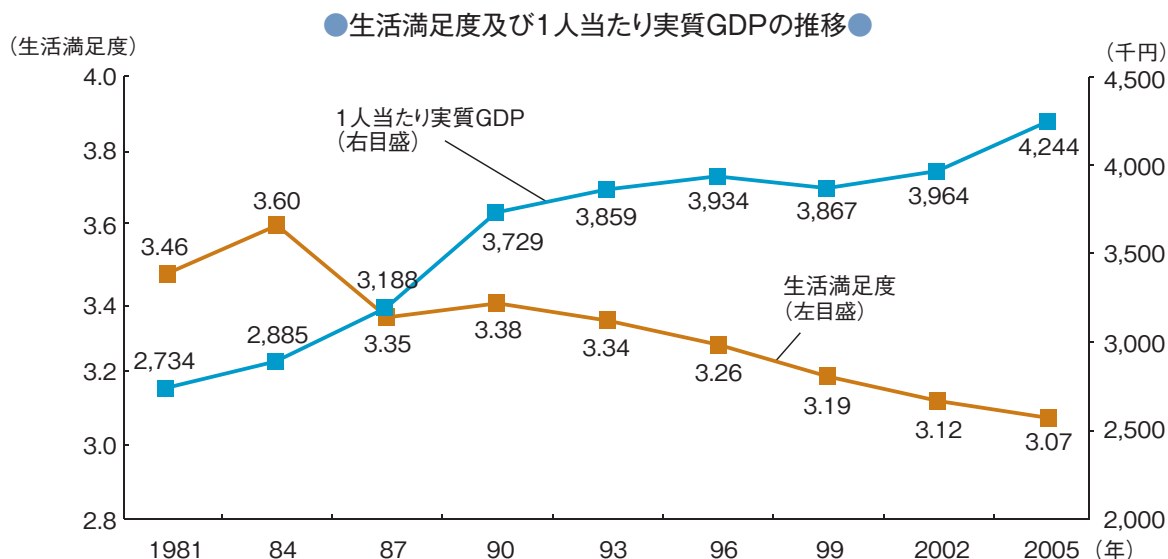


### 第3節 社会の主体としての消費者・生活者～幸福の探求

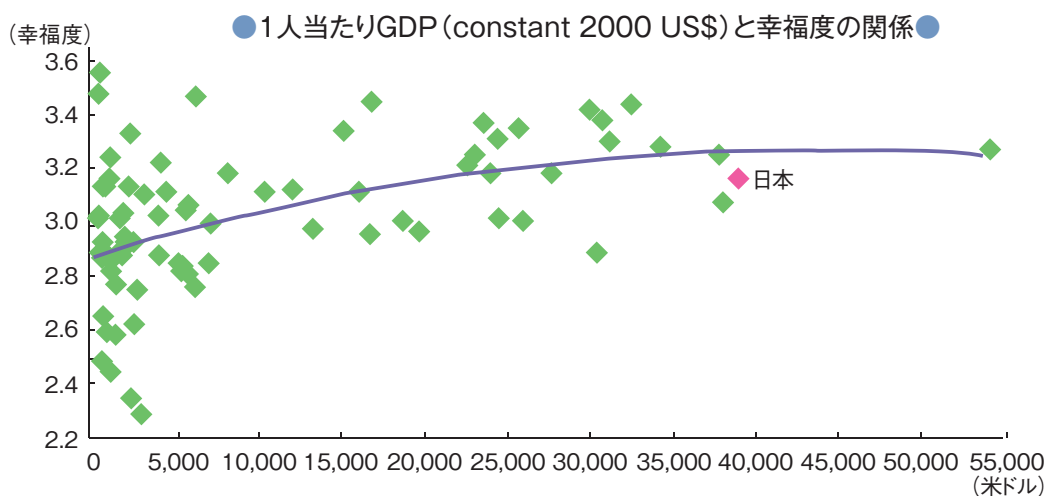
●経済的豊かさは、生活満足度の上昇に結び付いていないが、こうした現象は先進国に共通している。

第1-3-1図 | 生活満足度は上昇していない



- (備考)
1. 内閣府「国民生活選好度調査」、「国民経済計算確報」(1993年以前は平成14年確報、1996年以後は平成18年確報)、総務省「人口推計」により作成。
  2. 「生活満足度」は「あなたは生活全般に満足していますか。それとも不満ですか。(○は一つ)」と尋ね、「満足している」から「不満である」までの5段階の回答に、「満足している」=5から「不満である」=1までの得点を与え、各項目ごとに回答者数で加重した平均得点を求め、満足度を指標化したもの。
  3. 回答者は、全国の15歳以上75歳未満の男女(「わからない」、「無回答」を除く)。

第1-3-2図 | 1人当たりGDPと幸福度には明確な相関が見られない



- (備考)
1. 1人当たりGDPについては「WDI」、幸福度については以下のデータを使用。  
Veenhoven, R., World Database of Happiness, Distributional Findings in Nations, Erasmus University Rotterdam. Available at : <http://worlddatabaseofhappiness.eur.nl> (2008/11/18)
  2. 分析結果  

$$\text{幸福度} = 2.9031 + (1.79E-05) \times (\text{1人当たりGDP}) + (-2.13E-10) \times (\text{1人当たりGDP})^2$$

(71.809) (2.836) (-1.324)

 $R^2 = 0.2400$ . ※ ( ) 内はt値

●年齢が高いことや、失業、ストレスは幸福度にマイナスの影響を与える。特に、高齢になっても幸福度が高まらないのは日本の特徴となっている。

第1-3-4表 幸福度は属性や置かれている状況に影響を受ける

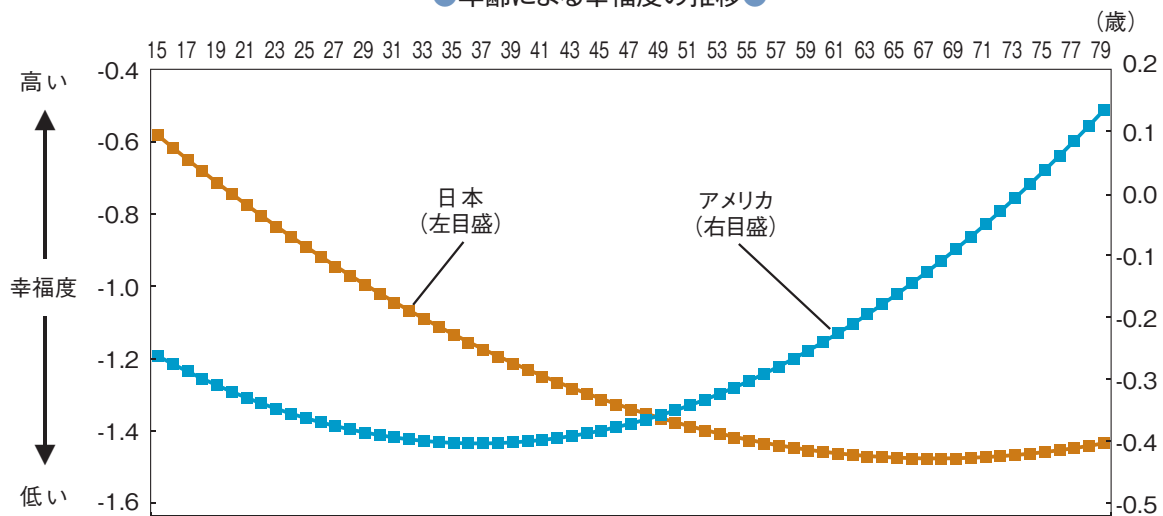
●幸福度に影響を及ぼす要因●

幸福度にプラスの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>●女性であること</li> <li>●子どもがいること</li> <li>●結婚していること</li> <li>●世帯全体の年収が多くなっていくこと</li> <li>●大学または大学院卒であること</li> <li>●学生であること</li> <li>●困ったことがあるときに相談できる人がいること</li> </ul>
幸福度にマイナスの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年齢が高いこと</li> <li>●失業中であること</li> <li>●ストレスがあること</li> </ul>
影響なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自営業であること</li> <li>●何らかのトラブルを経験したこと</li> </ul>

- (備考)
1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2008年)により推計。
  2. 「あなたは現在、ご自分のことをどの程度幸せだと思いますか」との問に対する回答(「幸せである」、「どちらかといえば幸せである」、「どちらかといえば不幸である」、「不幸である」の4段階で回答)と他の質問項目に対する回答との関係を統計モデル(Ordered Probit モデル)を用いて分析した結果。
  3. いずれも5%有意水準。
  4. 詳細は本文付注第1-3-1を参照。
  5. サンプル数は、全国の15歳以上80歳未満の男女3,752人。

第1-3-5図 日本人の幸福度は高齢になっても上昇しない

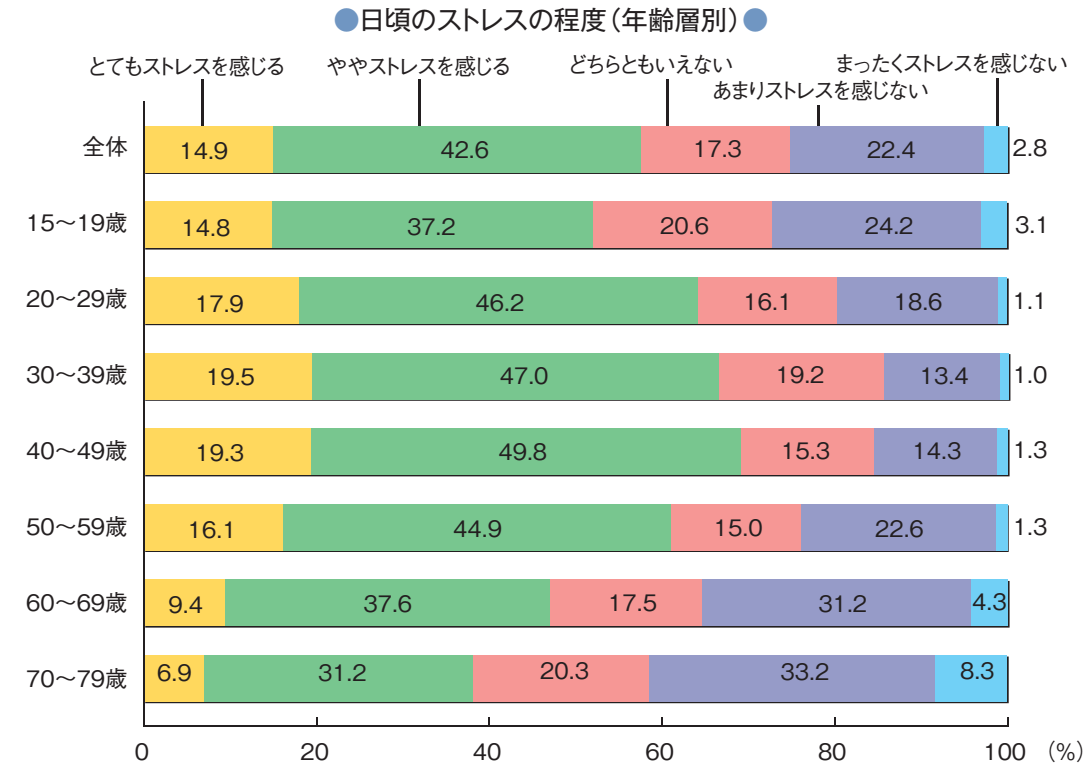
●年齢による幸福度の推移●



- (備考)
- 日本については、本文付注第1-3-1掲載の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。アメリカについては、David. G.Blanchflower, Andrew J.Oswald「Well-Being Over Time In Britain and the USA」掲載のTable4 (1)の年齢および年齢の二乗の推定結果により作成。

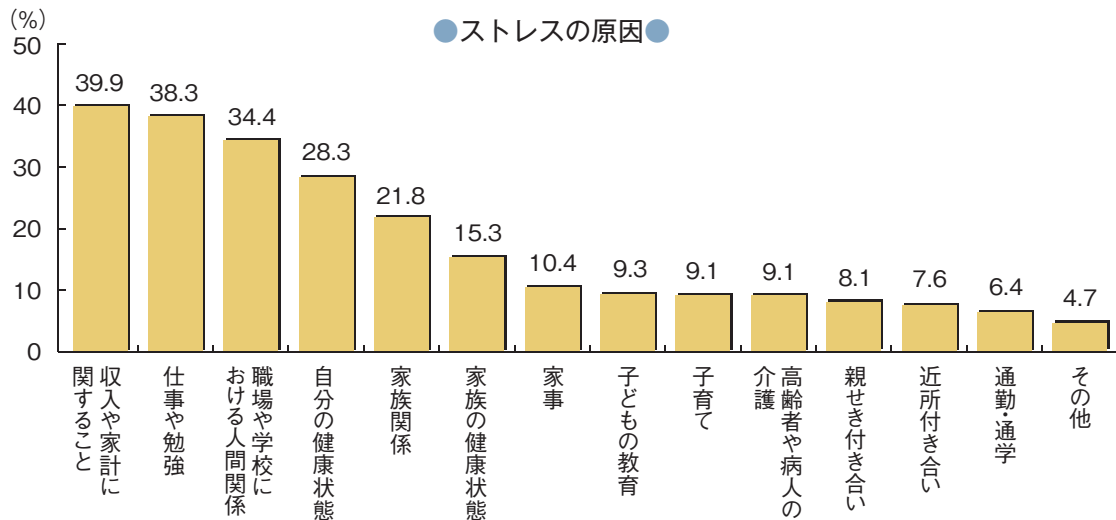
●10代から50代は大半が日頃からストレスを感じている。その要因は家計、仕事や勉強、人間関係、健康状態など、多岐にわたっている。

第1-3-7図 | 20代から50代では日頃ストレスを感じている人が6割を超えている



(備考) 1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2008年)により特別集計。  
 2. 「あなたは日頃、ストレスを感じますか(○は1つ)」との問に対する回答者の割合。  
 3. 回答者は、全国の15歳以上80歳未満の男女4,163人(無回答を除く)。

第1-3-8図 | 様々な要因がストレスの原因になっている



(備考) 1. 内閣府「国民生活選好度調査」(2008年)により作成。  
 2. 「あなたは日頃、ストレスを感じますか(○は1つ)」という問に、「とてもストレスを感じる」、「ややストレスを感じる」と答えた人に、「そのストレスの原因として、あてはまるものは何ですか。(あてはまるもの全てに○)」と尋ね、回答した人の割合。  
 3. 回答者は、全国の15歳以上80歳未満の男女2,393人。

